

あたまを耕すー7

「あと一週間で冬休みです。でも冬休みが終わると三学期が始まります」と言うと、「まだ冬休みも来ていないのに、三学期のことなど言わないで下さい」と言いたくなるでしょう。休みの前は楽しいのに、休みの後のことを考えると少し憂鬱になるから。「サザエさんブルー」という言葉を聞いたことはありませんか。ご存じのように、「サザエさん」は日曜日の夜6：30に放映される番組で、「♪おさかな、くわえたら猫♪」というメロディーが聞こえると、みんな「ああ、日曜日も終わりか。明日はまた仕事に行かんとあかんのか」と考えて少し気持ちが塞ぐという現象を表しています。これはどういうことか。日曜日の夕方とはいえ、まだ休暇中なのだから心がうきうきしているはずではないのか。でも目の前の休みより、明日の仕事のことが気に掛かるのです。これは「幸せは今のことより、将来のことにかかっている」ということではないでしょうか。つまり、今日幸せでも、明日この状態が失われると知っているなら、もう幸せではなくなってしまうということです。



これに対して「今さえ良ければええんや。過去も未来も考えずに、そのときそのときを楽しく過ごしたらええんや」と言う人もいます。これを刹那的（せつな。瞬間という意味。仏教の言葉）な生き方と言います。みんなはどう思いますか。目の前の満足だけを追い求めて生きることは、本当に幸せで充実した生き方なのでしょうか。私はそうは思いません。なぜなら、いくら楽しいことでも必ず終わりがあり、そして明日がやって来るのですから。楽しい事が終わってしまうと、「宴（うたげ）の後」のむなしさだけが残る。刹那主義というような、一見かっこいい言葉にだまされないために、普段から本当に価値のあるものとないものを判別できることが必要で、そのためには物事をじっくり観察し、深く考える習慣を身につけるのが肝要（大切という意味）です。

この2学期に始めた哲学史の授業は、物事を深く考える習慣を身につけることが一つの目的なのです。しかし、授業数が少なく、しかも飛び飛びなので、効果はあまり期待できません。ただ、ものの考え方を伝えることはできるたと思っています。

20年ほど前に『ソフィーの世界』という哲学史の本がベストセラーになりました。その本の著者はノルウェーの高校で哲学を教えている先生で、重要な哲学者の考えをわかりやすく説明していることが好評の理由でした。ただ、それまであまり普通の人にはなじみがなかった西洋の哲学を、日本でも知られるようにしたという功績は誰もが認めたのですが、大学の哲学専門の先生には、『簡単な哲学史』とか『わかりやすい哲学』なんかありまへん。哲学というものも物理学や数学と同じように、専門性の高い学問だ」と釘を刺す人もいました。



私もその通りだと思います。哲学という学問は、物理学や数学よりもずっと古いもので、チョー頭のよい人たちが25世紀にわたって考え続けてきた学問ですから、1冊の本で理解できるというような生やさしいものではない。だから、高校で哲学をやると言っても、きわめて表面的なことしか見ることはできません。でも繰り返しますが、ものの考え方を知ることはできますし、よい教養

を得ることは確かです。

価値のあるものは、簡単には手に入りません。むかし、幾何学の創始者として有名なエウクリデス（英語ではユークリッド。前300年ごろ）から幾何学を学んでいたエジプト王が「もっと簡単に幾何学を学ぶ方法はないのか」といわれて、「幾何学に王道なし」（「学問に王道なし」とも言われます。英語だと”There is no royal road to learning”）と答えたということもそれを表しています。「先生、成績の上がるコツなんかありませんか」と聞かれたら、「コツなんかない。せいぜいコツコツ勉強することや」とダジャレで答えざるを得ません。

現代の世の中は、できるだけ沢山のことを、できるだけ短い時間で、できるだけ簡単に手に入れることが最も価値あることだと考えるようです。それで多くの人が「要領が良い人」にならねばならないと考えています。でも、必ずしも要領の良いことが良いのかどうかはわかりませんよ。なるほど、試験では一定の時間に問題を解かねばならないので、早く問題を処理する力を養わないといけません。世の中にある問題はそう簡単に解けないもの、あるいは答えのないものすらあります。そういう問題と対処するときは、早く解けるかよりも、じっくり時間をかけて問題を考え続ける根気の方が大切になります。最近ファーストフードに対して、スローフードというものが現れていますね。これは注目に値する現象だと思います。

数年前にノーベル賞を受賞した田中耕一さんは、受賞に値した実験を成功させる前に何百回と失敗を繰り返したそうです（こう言う例は枚挙にいとまがない）。しかし、その失敗が役に立ったそうです。まさに「失敗は成功のもと」は本当だ。ちょっと違う喩えですが、博多から京都に行くのに、山陽新幹線に乗って行けば、2時間ちょっとで着きます。ところが山陰線を使って、しかも鈍行を乗り継いでいけば、二日かかるでしょう。しかし、山陰のきれいな景色を見たり、色んな駅から乗ってくる人たちの異なる方言を聞いたり、駅弁を食べたり、できるでしょう。こういうことは新幹線で早くきれいな旅行をすると、できない相談です。もちろん、時間がないと山陰線で行くのは無理ですし、普通はそんな時間がないのが現実ですが。

大学でスペイン語を教えていたとき、学生がよく「それは試験に出るのですか」と尋ねるのです。つまり、教えることが試験に出るなら勉強するが、出ないなら勉強しないというわけです。これはいわゆる「要領のよい勉強の仕方」と思われるでしょうが、私は馬鹿なやり方だと思います。というのは、もし本当にその科目をマスターしたいなら、試験に出る出ないに関係なく、教えられることは全部覚えていた方が得ではないですか。だから、みんなには今はあらゆる授業に真剣に取り組んで欲しいです。それが「入試に役立つかどうか」は別にして。

また表面的な試験勉強だけで満足して欲しくない。本当の勉強には読書が役に立ちます。その読書が試験に関係なくても良い本を読むことは人格形成にも教養を得るにも役に立つ。教養があると社会に出てから色んなところで自信をもって振る舞えますから。そういうわけで、冬休みなどの長期休暇（冬休みは短いけど）は、読書のチャンスと思って計画を立てて欲しいです。

今年もわずかです。皆さんは、この一年を振り返ってどう思いますか。成長したと感じますか。私は成長していると感じます。でも来年はもっと成長して欲しいです。そのためにも、要領のいい人よりも、ちょっと不細工でも地道に努力を続ける人になって欲しいと思っています。

それではまた来年。よい年を迎えて下さい。